

会 議 録

会 議 名	市長とまちなかミーティング
開 催 日 時	令和元年 9 月 11 日（水）午後 7 時～午後 9 時
開 催 場 所	宮脇地区公民館 2 階 会議室
出 席 者	市長，副市長，総務課長，企画課長，企画課まちづくり推進係長，総務課行政係員，宮脇地区コミュニティ・プラットフォームオールスターズ（以下「宮脇コミュプラ」という。）10 名 計 16 名
会 の 概 要	1 メンバー紹介（他已紹介） 2 本団体について 3 宮脇かたろかい 「宮脇地区として市と連携したいこと」 4 3 の内容共有 5 双方質疑応答 6 市長からひとこと
議 事 の 要 旨	5 双方質疑応答（※ 市長に対する問いのみ抜粋。） (1) 未曾有の災害時に市がどこまで対応できるか疑問で，避難所開設時における市の動きと地区の自主的な動きがうまく連携できるよう，双方で話し合っていないといけないと思うが，市はどう考えているか。 避難所は，大規模災害時にあっては市の職員も現地に向かうことが困難なことが予想されるため，できることならば自分たちの地域を一番よく知っている地域の方々，自主防災組織等で運営していただき，情報共有しながら市と連携（役割分担）できている状態が望ましい。 (2) コミュニティ・プラットフォーム事業から設立する，私ども N P O 法人への支援はあるのか。 現段階では，市単独での N P O 法人に対する直接的な補助，助成制度はなく，予定も今のところはない。コミュニティ・プラットフォーム事業を進めるなかにおいては検討中であるが，国県の補助事業や市の他の助成制度等を活用していきたい。

	(3) コミュニティ・プラットフォーム事業に関連する市のビジョンなど今後の方針はどのようなものか。 地区毎にあるビジョンのまとまりが市のビジョンでもあるという考え方もありますので，市の情報等の共有もですが，まずは地区民との共有を図っていただきたい。
会の内容	
1	メンバー紹介 略
2	本団体について 略
3	宮脇かたろかい
進行役) これから「かたろかい」を，ぜひ市役所の皆さんに見ていただきたいと思っております。今回のテーマは「宮脇地区として市と連携したいこと」として，ファシリテーターをAさんとBさんをお願いして進めたいと思います。いったん既定の20分間でまいりたいと思います。それでは，よういスタート！お願いします。 ～ ワークショップ／2グループ ～	
4	3の内容共有
進行役) それでは共有をしていきたいと思います。各班で話したことをファシリテーターにお話しただいて，詳しい部分とか，説明が必要な部分とかは補助の方がお話ししていただければと思います。では，ファシリテーターAからお願いします。一応3分計りますが，オーバーしても構いません。 ファシリテーターA) こちらの班で行われた内容を報告させていただければと思います。実際にコミュニティ・プラットフォームでも最初に肝となったのが「教育」です。宮脇地区に関しましては，保育園があり，宮脇小学校があり，颯娃中学校があり，颯娃高校がある。宮脇地区として「教育」というテーマを，もう一度再確認していく必要があるのではないかという話が最初に出たところです。そのためには，学生が戻ってくる，残りたい，そういった魅力のある地域づくりというのが先ず必要，大事だよねという話になったので，それを誘致する行政とか，商店，企業，そういったところがどうい	

風な利点を持たれていて、学生の人たちが残れるような環境をつくれるかどうかも大事だと、働く場所の確保が大事だという話でした。

それ以外の「地域の行事」ですと、成人式や運動会とか、ほかにも持ち回りの行事もあるけども、ちょっとずつ知覧の方に一箇所集中になってきているのではないかなと。例えば、鰺ヶ谷地域で行事があるとそういったところに人が流れてきて、宮脇地区、鰺ヶ谷地域を知っていただく機会にもなるのではないかなと思っております。特に宮脇地区は「スポーツ」、そういったところにも力を入れていますので、スポーツの大会等については企画をしていただければいいのかなというところですよ。

あとは色んなことをするにしても、やはり資金がないと、予算がないと動けないというところがありまして、そういったところに関して、住民と行政、そういった方々の意見がどの程度すり合わせが行われているのかなと、本当に必要なところに必要な経費がいつているのかなという疑問がありました。

情報共有や意見交換ができていいのか。情報が不足している、行政が思っていることが住民に伝わっているのかということも課題としてあがってきているのかなと思います。それ以外でいい面もあるのですけれど、宮脇地区は商店街があって、人の流れも比較的鰺ヶ谷地域の中でもあって、そういった中で情報発信できる環境を整えば、いろんな宮脇、鰺ヶ谷地域、南九州市の発信をできるなど。土産物屋さんがないよねということだったり、土産物を買える場所や販売できる場所だったり、そういったところもあれば、大きな商業施設を市がつくってくれると働ける場所の確保にもつながってくるのかなという声もありました。実際に、最終的になんですけども、市との連携であったり、地区公民館であったり、そういったところと、今回NPO法人が立ち上がるわけですけども、意見のマッチングというのがどこまで行政としてもできるのかなというのがありまして、そういった課題もありますし、（模造紙の）赤いところは今後こうしていった方が宮脇地区は盛り上がる、青のところは課題といったところでまとめさせていただいております。話がまとまりきらなかったのですけれども、時間がきておりますので終わりたいと思いますが、詳しく聞きたいなというのが2、3ありますので、この中から掘り下げて、後ほどご質問させていただきたいと思います。

進行役)

ありがとうございます。続いて、ファシリテーターB、お願いします。

ファシリテーターB)

主に4つまとめたものを発表したいと思います。

まず1つ目です。この間台風がありましたけれど、災害時の対応で地区としての災害対応の在り方がどうなっているのかなという質問が出ました。避難場所として開設されていたのかとか、どの程度の人が避難しているのかとか、情報開示の関係で市と協議していかないといけないですけども、来る人が決まっているし、なかなか高齢者は（避難が）難しいという声もありました。私たちの地区としても3人組制度の導入ということで、日常の交流を持つ機会というのが普段から必要なので、日常のコミュニケーションが非常時に生かされるようなシステムづくり、それを避難所対応、災害時に避難者が来たときに、そのあたりの対応の仕方を、公民館を介して、市と公民館、そして地区民がいかにシステムというか、対応を協議できるかというつながり方の検討が必要かなというのが出ました。

2つ目は、どこの地域もそうなのですが、「終活」をテーマにすると、高齢化社会ということだけで一括りにするのではなくて我が事としてとらえる機会も必要なんじゃないかなと。多様な生き方があるわけなので、同世代交流だけではなくて異年齢交流を通して触れ合うことで、このような生き方があるよねとか、専門家を呼んだりして一生心も体も健康でいられるような、多様な生き方、あり方を聴かせていただくようなお願いもしていきたいなと。

3番目は「情報共有のしかた」です。これまでの「かたろかい」で出た意見が（この会場に）付箋でバーッと広がっているのですが、アナログで集約したものを日めくりカレンダーみたいな感じでデータにまとめてデジタル化する。「かたろかい」で出てきた意見がこの付箋紙に詰まっている、地区民の声をアナログで拾いあげてそれをデジタル化する、アナログとデジタルを融合して地域内外に発信することで、宮脇地区ではこんな悩みがあるけどみんな意見を出し合って解決しているとか、こんな風に進歩しているというのを地域内で情報を一元化して共有できるといいなと思っています。

最後に4番目なのですが、空き家とか農地、放棄農地の問題もできました。どのような状況なのか、数字的なものとか、個人情報とかで開示できないとかもありますので、地道な取り組みではありますが調査チームをもって独自に取り組むことで、そういう人材バンクも含めてマッチングのシステムを地道につくっていくことが必要だと思いました。

宮脇コミュプラ)

いろんな管理する上で行政機関にいいシステムがあるのですよね。管理する上で私もデータを見せてもらったのですが、こんな便利なのがあるのだなと思いました。一般家庭ではできないといわれました。航空写真のレイヤーに乗せている図面をいただければ、目の前に何かあって考える方が分かりやすいし、いろんな人に共有を図りやすいので、そういう基となるデータをぜひ提供いただければ、効果的にまとまっていくのかなと思います。

5 双方質疑応答

進行役)

ありがとうございます。双方でいろんな話が出てきたかと思いますが、私から2班の総論ではないですが、市役所の方に問題提起と言いますか、意見を出せたらなと思っています。こちら(B)の班では「防災」について多く語られていたのですが、台風が来るとなったときに、基本的には市役所の方から地区の避難所が開設されましたと連絡が入るかと思っています。今後、わたくしたち地区の自主的な動きと市の動きとどう連携させていくのかは非常に問題というか、今後双方で話し合っていけないといけないポイントではないかなと考えているところです。避難所自体も宮脇地区ではほとんどが公民館、場合によっては小学校となっていますが、水害がきたときはこの辺りは土砂崩れとか危ないのかなと思っています。さらに言えば駐車場のキャパですが、万が一車で避難に来られる方がいらっしゃれば、駐車場は全然足りないと思います。そして(避難者は地区公民館の)2階と1階だけでは、全員の収容はできません。幸いなことに1人だったり2人だったり、もしくは0人と避難者は少ない状況ですけれども、**未曾有の危機があったときに市がどこまで対応ができるのか**というのは疑問です。私たちも私たちで考えていきますが、市役所の考えもお伺いしたいなと思いました。

メンバーからもあるかも知れないですが、私どもNPOでは予算がなしで走るということで、寄付金を地域内から集めていくということで予算化をしていく予定です。ただ、元々このプロジェクトは、市の企画課のコミュニティ・プラットフォーム事業ということからスタートしております。そういったところから、集落支援員の方では予算がついていると思うのですが、**私どもの(コミュプラの)、NPOへの支援とかはいただけるのか**というのは疑問に残っている点ではございます。積極的に欲しい欲しいと言っているわけではないのですけれども、うまい連携という方法がない

ものかなと思うところでございます。そういったことで、こちら（大村さん）の班からは「予算」の面、非常に大きく議題としてあがってきていましたので、この2点について市役所の方からご回答いただければと思います。

このような感じで、市役所の方からもわたくしどもに質問を投げかけていただき、なだらかに双方で質疑応答していただければと思います。

副市長）

わたしがB班にいましたが、市としては「情報の共有」ということで、その中で先ほどありましたようにレイヤーとか情報はいくらでもありますので、その個人情報等を抜いた部分についてはいくらでも提供できるというふうには思います。

あと「災害対応」の件につきましても、本市自主防災組織が100%組織化されているのですが、かといってそれが実働しているかということになってくると、課題もあるのかなと。その辺を互いに情報を共有、キーワードとして〇〇・・・〇〇。

企画課長）

NPOの話が出ましたが、市内には現在NPO法人が14組織あります。それぞれで非営利団体という組織で、収益を目的とした法人等はないわけですので、今後宮脇地区がどのように進めていくかわからないのですが、基本的にはNPO法人に対する補助制度とか助成とか、現段階、話のなかに出ておりません。地区の中でNPOとしてどのように進めていくかは、ぜひ話をしていただきたいと。その中で補助事業としては、先進地を見ても国県の補助事業などを取り入れながら、また場合によっては市の案件の助成をしていかないといけないと。10年計画の中で棲み分けをして、これはNPOで行う事業、地区で動く事業、市と連携する事業と棲み分けをしながら、助成制度等については、今後の課題といいますか、市からどの事業を宮脇地区コミュニティ・プラットフォームにお願いすることがあるのか検討中です。その中で収益事業も出てくるはずですので、その辺のものを活用していただければというふうに現段階では思っております。

総務課長）

自主防災組織の動きについて、避難所に市の避難所で〇〇・・・〇〇情報の共有が大事なのかなと。普通の場合であれば市の職員が避難所担当で駆り出されるのですが、大きな災害が来たときには市の職員が避難所に向かえるのか分らないと思います。避難所の運営というのは、できれば地域を知っている地域の方々が運営をしていただいた方がベターかなという

ことで、今後はそんな形で市と地区の自主防災組織で「この部分はもうお願いね」と連携できていれば非常にいいのかなと思います。

進行役)

市でハザードマップがありますけれど、地区でも作ろうという動きがこのコンピュータからも生まれておりますので、市の情報と連携をしながら政策が進めていければなと思っております。

市役所からも質問があればお伺いしたいのですが、いかがでしょうか。

宮脇コンピュータ)

先ほどから情報の共有が非常に大事だという話が出ていますが、この事業を始めて地域の将来を一生懸命考える中で、なかなか10年後のビジョンというのは出てこなかったのですが、いわゆる官民共有のビジョンと一緒に作っていこうと、ビジョンの共有に力を入れていっていただきたいなと思っています。そこは、NPO法人を立ち上げるきっかけになったひとつにも、何かをしようにもお金がない。行政に「何かして」という時代も終わったと自分たちでは思っているのですが、費用を捻出したり、何かしら地域の人々の理解を得るためには、認証度の高い組織としてNPO法人を立ち上げて、それに対して実績を少しずつ重ねていながら、地域の人から信用を得るというそういう思いでやっているのですが、その先に我々がイメージしているものと、市の方でこんなことは困るとか、例えば自治会をどうしていかなければいいのか、地区公民館を将来的にどうされたいのか、**ある程度の共通理解がないと一生懸命考えたことが無駄**になって、簡単に水に流れたりすると、地域の人々の思いも一緒に流れちゃうと思うのですよね。ですから、そういうすり合わせをする時間なり、機会をぜひつくっていただきたい。地区によってその答えは当然様々だと思いますので、**その地区に応じた仕組みや、行政が考える「この地区はこうあったらいいよね」をコミュニティ・プラットフォーム事業でされている延長で動いていただいて、それをフィードバックしていただいて、あの地区はこうだった、この地区はこういうところを工夫しようとか、そういう将来を、この今の事業に答えがでてくればいいのかなと思います。非常にこの事業というのは大事なことで、僕は将来と関わることで、すごく重いことに足を踏み込んだ、手を挙げて参画させていただいているといういい意味での強い信念でやっているつもりです。それを「やっぱり考えたけど無理だったね」となるのが怖いので、**市のビジョンと全く違う方向でお互いにねじれの関係になってしまって、どこまでいっても接点がなかったという****

のは怖い。やはり先ほども出ましたが、そのビジョンの共有というのを薄っすらでもいいのでさせていただければと思います。

進行役)

今後の方針とかがあれば共有いただきたいと思いますが。地区公民館ですとか、全体的な話ができればお願いします。

企画課長)

市の今後の動きとして、まだ議会の可決も得ていないところですけど、地区公民館は社会教育法の条例で定まった公民館です。教育委員会の部局から市長部局に今回移管するということで、教育現場だけの組織ではもうなくなる。なくなると住民自治を実際にやっていけないと。あくまで宮脇地区コミュニティ・プラットフォームというのが地区公民館を中心として組織とされますので、そのなかのコミュニティの立ち上げを担っているのだと、組織化されていると。そのなかで地区民の総意というものをどういう形でやるのか、市との共有ということもありますけど、まずは地区民との共有というのをコミュニティ・プラットフォームで作っていただいて、そのためにも市の情報等もなければいけないと思いますが、それぞれの地区毎にあるビジョンといったまとまりが市のビジョンでもあるという考え方もあると、逆に取れることもありますし。こういう組織のあり様については、宮脇、松ヶ浦、高田とそれぞれの地区でほとんどやり方が違うのですが、そのやり方というのは自分たちでどうあればいいかということからスタートしていますので、先鋒として宮脇地区が他の2地区のいい材料というか、参考に非常になっているので、皆さん方の話し合いだとか、思いといいますか、いい形に進んでいるのだなと思っているところです。

ちょっとまとまりがないですけど、最初に出た「自治会を地区公民館で」という考え方は基本ないです。自治会は統合もあり得るし、単位としての組織は自治会であるというような考えで、究極は、川辺地域の区という組織がそのままの自治会になればいいよねという話もあって、それぞれのやり様というのが各地域であります。基本、宮脇地区を宮脇自治会にしようという考え方は市ではもっていません。

進行役)

川辺は区があるのでちょっと違うのだらうなというのがいつもお話で出てくるのですが、自治会もこの地区でいうと、赤崎自治会とか減ってきているところはどうするかと「かたろかい」でも出てきているところがございます。「かたろかい」というのは本当の意味での深刻な課題というの

はなかなか話し合われてきていなかったというのが、自分たちも反省点でありながら今後も調査していかなければならないのかなと思っている次第です。

ビジョンのことは、ありがたいことに私たちのビジョンも組んで総意ということもありましたので、私たちは私たちでしっかりとしたビジョンを持ち続けることが必要なのかなと改めて感じたところでした。

ほかにあとおひとりくらいでしょうか、お話を伺えればなと思います
が、いかがでしょうか。市役所から私たちに何か質問でも構いませんが。

市長)

ひとつよろしいですか。NPOをこの地区で設立するといいましたが、
どういう形でどういう活動をされていくのか、地域づくりをNPOでやっ
ていくとか、その辺りを、**どういうことを実際やっていくのか、目標を聴
かせていただければ**と思います。

進行役)

私の方から簡単にご回答させていただければと思いますけど、一番は地
域で何かやりたいこと、問題、そういったものを通常だと集落の自治会
長、若しくは公民館長に相談していたかと思いますが、そこに新たな中間
的な民間の窓口「宮脇コーディネーター」という存在をつくるというのが
一番のNPOの核の事業になるかと思います。この存在というのは、いわ
ゆるNPO法人のスタッフであり、おそらくここにいるメンバーになるか
と思います。このメンバーが課題に応じて調査に入ったりですとか、若し
くは人と人をつなげるコミュニティをつくったりですとか、そういったと
ころになってきていまして、そのコミュニティを作る活動とかそういった
ことはこの計画の中に入っているような状況ではございます。一つ事例と
してお伝えできるかなと思うのが、「学び合い」「実働のコミュニティ」
をつくるというのを挙げております。例えば、颯娃町はパン屋さんがあり
ません。その中でパン作りが趣味な方たちが地区内に複数いるかと思いま
すが、その人たちが出会う場を作ります。さらにパンを作るのがうまくな
るように講師を、地域内には管理栄養士さんや調理師さんがいらっしやい
ますので、そういった方々を専門家ネットワークと括りまして、その方々
をそこに講師としてつけます。加えて場所です。調理できる場所は地域内
のあらゆるところにあります。まず地区公民館ですとか、集落の公民館で
す。飲食店さんもしかしたら利用できる可能性があるかもしれません。
そういった地域内で使える拠点をハブというか、ネットワークにまとめま
す。その方たちが趣味を実現できる場所、一緒に活動できる場所をつくる

というのが先ずあります。最終的にその方たちはパンを作るのが上手になりました。次は何をしたいかとなったら、パンを売りたいわけですね。パンを売るためにはどうするか、それはやはりノウハウを持っていませんので、そのときもやはり講師が必要となります。そこでまた講師をつけてあげて、場所を提供してあげます。たとえば、通り会には空き店舗がたくさんあります。そこをうまくマッチングします。そして、パン屋さんが宮脇地区にできました。そういうのが10年間でやりたいのですね。そのために先ずは人海戦術です。地域コーディネーター、宮脇コーディネーターという存在が手となり足となりそういうことをやっていくというのがこの事業の本質でございます。これを叶えるために人材を先ずは強化していくというところからスタートしまして、最終的には「小商い」ですね、お商売まで生まれるようなNPOにしていければというふうに思っています。もうちょっと派生をすると、毎週そうやってパン作りで会っているコミュニティのメンバーは、例えば地震が起きたときどうするかとなったら、互いに電話をするのです。毎週何曜日に会っているなんとかさんは元気だろうかと電話をします。それで自主防災になるのです。そう意味で私たちはセーフティネットづくりとして、コミュニティづくりを動いております。そういった大きな構想のなかで、先ずは人材を強化するというところからスタートしようというところで始まります。なので、とても長い道のりではありますが、NPO法人でそういった世界観をつくりたいと思っています。以上です。

進行役)

では、地区公民館長から一言いただいてよろしいでしょうか。

地区公民館長)

今日は、市長以下関係部局の方々にご出席いただいてのまちなかミーティングということで、コミュプラメンバーの思いで開催していただきありがとうございます。いろいろとありますけど、このコミュニティ事業に取り組んだのは、宮脇、地元を私はよく知っているので、宮崎の当時の県知事が言っていたが「どげんかせんないかん」とそういう時代ではないよと「どげんかすいが」と動く時代だよということで取り組んだのですが。宮脇においては幸いに、こういう若い方々に恵まれて、まだここにいるメンバー以外にほかにいっぱいいるわけですが。メンバーに私も丸投げの状況です。私が目指していたというのがあって、最近の説明の中でわかってきたのですけれども、地区公民館でやるべき事業は事業、そしてそれを収入を得て活性化になるような取り組みというのを考えていたの

ですけれども、法人を立ち上げて民営化と私が期待したとおりの動きになっているようでございます。そういう意味で先ほど事業の支援的なものもありましたけども、去年、今年と市の方からいただいております。地区としても法人を立ち上げるために必要な経費というのはできる範囲での動きというのはさしていただく予定ですけども、事業内容によっては市の方からの支援、方策を考えていただければ大変ありがたいなと思っています。要を得ませんけど、私の挨拶とさせていただきます。

進行役)

最後に、市長から一言いただければなと思います。感想等で結構でございますが、いただければと思っております。よろしかったでしょうか。

市長)

本日は市長とまちなかミーティングということで企画をさせていただきました。応募をいただきましてありがとうございました。いろんな話をさせていただいたところで、先ほどの話の中でもビジョンという言葉が出てまいりましたので、市政のビジョンといいましょうか、私の考えを話したいと思います。南九州市というのは顓娃、知覧、川辺と似通ったまちが一緒になっているわけです。先ほど牛垣さんとかから顓娃と川辺の交流ができていない、理解がまだできていないのではないかと、いろんなイベントも知覧ばかりであるといった話もでてございました。確かに、そういうイベントはあちこちであったほうがいいのではないかなという思いもあるわけですけども。このまちづくりというのは難しいところがあると思っております。川辺、知覧、顓娃でその一つの大きな、指宿市のようなところは指宿が中心にあって、全ての病院とか施設が集中しているというような、便利なところに人が住むような集中するような形になってきて、日本でいえは東京一極集中というようなわけですけど。南九州市ではやはりそういう形はできないかなと思います。やはり、この3つのまちで小さな形ででもコンパクトタウンといいですか、そういう形でのまちづくりをしていかなければならないのではないかと思っております。そのなかで先ほど出てきました、教育の場所とか、商店があったり、スーパーがあったり、或いは病院があったり、そういう地域を一つずつ作っていかなければいけないのではと思っております。顓娃は、この宮脇地区がそういう場所であると思っております。皆さんがこうしてコミュニティ・プラットフォームというこの事業を、地区公民館で一体になってNPOを立ち上げてやるのだということでございました。わたしは、宮脇のやり方、みんなが一体となってやろうということは非常にわかりました。顓娃の方は、他の知覧、川

辺とすると、ここ合併してから10年のそういう活動がこのプラットフォームという形では別ですが、企業誘致、或いは地方創生事業というような取り組みとかではちょっと遅れているのではないかと考えております。地方創生事業は、現在、私になってから5つ採択をされていて、その中で颯娃町の事業は颯娃おこそ会の事業が1つです。川辺地域は3つ事業をやっている。知覧は1つということで、今現在計画しているのも川辺ということです。ですから、このNPOを立ち上げるのだということでございますけど、そういう事業を取り入れながら、これを進めて、いろんな中間の支援をNPOがやっていくのだと、災害とかその対応にしてもやっていくのだということで、いろんな事業をするにもこのNPOがやっていただければ、窓口になっていただければありがたいと。それが地域活性化になってくると、農業振興にせよ、商店街の活性化にせよ、結びついてくると思いますので、みんなで市と連携をしてやっていただければと思うところでした。今日はありがとうございました。